



東京多摩プロバスニュース

第 68 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2016. 9. 7.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

豊かなキャリアをこの街に活かそう！

第 13 期 定期総会、第 145 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 7 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 25 名(会員数 32 名)

第 146 回 定例会

日 時 : 平成 28 年 8 月 3 日(水)午前 10 時より

場 所 : 永山公民館視聴覚室

出席者 : 24 名(会員数 32 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「年度初めにあたって」

神谷前会長の後を引き継ぎ、28 年度(第 13 期)の会長を務めさせていただきます。

“豊かなキャリアをこの街に活かそう！”をスローガンに、向う 1 年間頑張る所存です。よろしくお願ひします。

当クラブも 13 期を迎え、よく言えば円熟期、見方を変えれば、やや停滞気味ともいえます。先日のプロバスフェアでは短期間にも拘らず、パネル展示・イベントで会員の皆さんのポテンシャルの高さを見せて頂きました。より一層の活性化を図るためには、会員の増強策が急務と考えています。幸よく皆様のご努力により 9 月には 2 名の入会が予定されています。

倉賀野武士会長

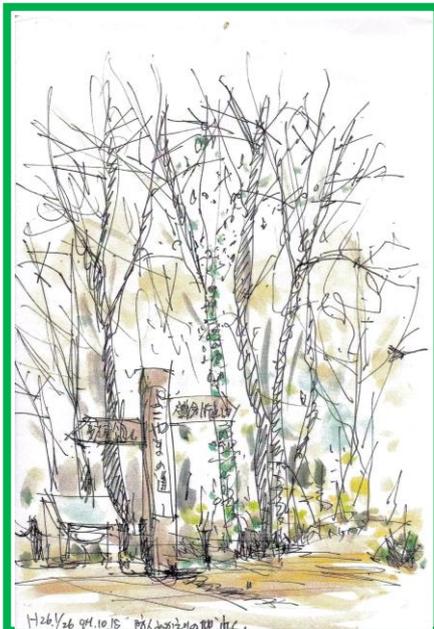


また、単独では力が弱くても、他のボランティア団体との連携・協調により地域奉仕活動に成果をあげることが出来ます。その一環として、過日ワールドキャンパス多摩(WCT)の行事に会員 9 名が協力、日本の文化紹介のコーナーで昨年と同じく「多摩プロバスかるた」を使用した“かるた大会”を開催し好評でした。アメリカ、イギリス、北欧、ギリシャ、中国等 11 か国 18 名の若い研修生を通じ、民間レベルでの国際交流に役立ったと思います。

一方、近隣の八王子、日野プロバスクラブと卓話交換等を通じ、連携を密にしていまいます。

次に、クラブのより弾力的な運用を図るため、委員会組織、会則・運営細則を実態に即したものに直視を計画しております。今年度は特に大きなイベント等は計画していませんが、次々年度に当クラブは創立 15 周年を迎えます。記念事業等の規模・内容について、会員の皆様のご意見を集約し方向性を協議してまいります。

オリンピックの深夜応援で寝不足がつづいたかもしれませんが、まだまだ残暑が長引きそうです。健康に留意し無理をせずこの夏を乗り切りましょう。



多摩プロバスかるたの原画「万葉の 歌に詠まれた 多摩の横山」 山田正司会員画

◇◇◇ 第13期定期総会 ◇◇◇

第13期定期総会(平成28年度)が7月6日(水)午後1時30分より関戸公民館第2学習室で開催された。神谷真一会長の開会挨拶後、議長・書記が選出され審議に入り、第1号議案から第6号議案まですべて異議なく承認された。

その中から、倉賀野武士会長並びに新理事による第13期の活動方針内容を記述する。

1. 平成28年度新理事

会長	倉賀野武士
副会長	西村政晃
幹事	上田 清
会計	鈴木泰弘
総務委員会委員長	大澤 亘
研修・親睦委員会委員長	秋山正仁
地域奉仕委員会委員長	村上伸 茲
広報委員会委員長	登坂征一郎



新任の役員: 左から鈴木会計・大澤総務委員長・秋山研修親睦委員長・上田幹事・西村副会長・倉賀野会長・村上地域奉仕委員長・登坂広報委員長・神谷監査 各位

2. 平成28年度基本目標と活動方針 倉賀野武士会長
 <スローガン>「豊かなキャリアをこの街に活かそう！」

- 1) 基本目標; 会員の親睦を深め、会の活性化を図り、プロバスライフを楽しみながら地域社会に奉仕する。
- 2) 活動方針;
 - ① クラブ会員の増強策を積極的に進める。
 - ② 他のボランティア団体との連携・協調により、広範囲での地域奉仕活動を進める。
 - ③ プロジェクト活動・サークル活動の活性化を図る。

- ④ 他のプロバスクラブとの交流を図る。
- ⑤ 会の活性化と弾力的な運用を図るため委員会組織、会則・運営細則を実態に即したものに直す。

3. 各委員会の活動方針

- 1) **総務委員会** 大澤亘委員長
 基本目標と活動方針を踏まえ、幹事及び各委員会との緊密な連携のもとにクラブ全体の円滑な運営、計画の着実な実行、成果の実現に努力する。
- 2) **研修・親睦委員会** 秋山正仁委員長
 会員の自己研鑽と相互理解を図ることを目的として、社会見学・研修旅行・ウォーキングやお花見・親睦会・他プロバスとの交流などを実施する。
- 3) **地域奉仕委員会** 村上伸 茲委員長
 会員の豊かな経験・実績を活かし地域奉仕活動を実施する。
- 4) **広報委員会** 登坂征一郎委員長
 会員相互の交流を情報面で支援し、プロバス活動の活性化を図ると共に、外部に向けて当クラブの活動を積極的に発信していく。



総会・定例会後、京王クラブで恒例の懇親会を開催。東京多摩 RC から会長小林誠治様・理事飯島文彦様、東京日野 PC から会長小島馨様・副会長小西弘純様を来賓にお迎えし、総勢27名が親交を深めた。小林誠治様、小島馨様からご挨拶をいただき、平田哲郎会員の“新幹線の清掃チーム”や“渋谷駅前のスクランブル交差点”が海外の研究者の話題になっていることを紹介して乾杯。今回はご来賓と会員との対話の交流を中心として盛り上がり、楽しいひと時を過ごした。

鈴木達夫会員記

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

上田清幹事

- 1.1. 東京多摩ロータリークラブへの新任の挨拶
 8月9日(火) 東京多摩ロータリークラブ例会に、当クラブ新3役倉賀野会長・西村副会長・上田幹事が挨拶に訪問。

- 1.2. 全日本プロバス協議会第1回東日本ブロック交流会
 9月5日(月) 件名の交流会が京王プラザ八王子にて開催されます。当クラブから会長以下11名参加します。

◇◇◇ 幹事・委員会報告(つづき) ◇◇◇

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

大澤亘委員長

1) 第145回定例会 7月6日(水) 関戸公民館第2学習室
第13期定期総会に引き続き新体制による平成28年度第1回定例会を開催。

・卓話「富士山はいつ噴火するのか」 大澤亘会員
関連記事P4参照

2) 第146回定例会 8月3日(水) 永山公民館視聴覚室
当日午後からベルブ永山ホールで開催されるワールドキャンパス多摩(WCT)の主催行事「世界とあくしゅ Tama 広場」に協力するため、会場を永山公民館4階視聴覚室に、時間も午前中に変更して開催した。 関連記事下段参照

3) 今後の予定

・第147回定例会 9月7日(水)13時30分 関戸公民館第2学習室

・第148回定例会 10月5日(水)13時30分 関戸公民館第2学習室

2.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

1) 8月3日(水) AM9:00~10:00 委員会を開催し、今年度の具体的な活動について話し合いを行った。

・ウォーキング(自然観察・名所旧跡地探索など)広く会員より要望を集める。

・施設等の社会見学として、迎賓館赤坂離宮の一般公開(11

月以降インターネットにて参加者を募集する)

・東京江戸博物館・築地場外市場・NHKスタジオパーク・両国国技館等の施設見学の日程を調整中

・親睦計画・お花見会・昼食会・忘年会・研修旅行

2) 8月19日(金)14時~17時 「歌を楽しむ会」、カラオケスナック恵美 9名参加

3) 8月21日(日)10時より、夏祭り文化体験会に自由参加1日パス500円(関戸公民館)

4) 委員会開催; 9月7日(水)、10月5日(水)

2.3. 地域奉仕委員会

村上伸茲委員長

最近、感銘を受けた発表がありました。

一つは、天皇のお言葉「生前退位」、もう一つは高齢化が進み「戦争の語部」が減ってきているが、語部をやられておられる方は頑張っている。文化の継承を中断させたくないという思いがあります。我々も「文化の語部」です。

平成28年度の計画として、我々が経験して作り上げた文化を語ることにより、多摩の小中学校の[ESD 持続発展教育]の支援を行なうつもりです。応援下さい。

2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1) プロバスニュース第68号を9月7日(水)に発行配布。

これからも会員各位の活動について、積極的な投稿をお願いします。

2) ホームページ更新9月20日に実施予定。

◇◇◇ プロジェクト活動 ◇◇◇

ワールドキャンパス多摩(WCT)2016 大澤亘会員

今年も日本に関心を持つ世界の若者たちを多摩市に招くワールドキャンパス多摩(WCT)のプロジェクトが7月30日から8月5日までの1週間にわたって実行された。

今年の参加者は、米国、英国、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、オランダ、ルクセンブルク、ギリシャ、中国、フィリピンの11か国から計18名。

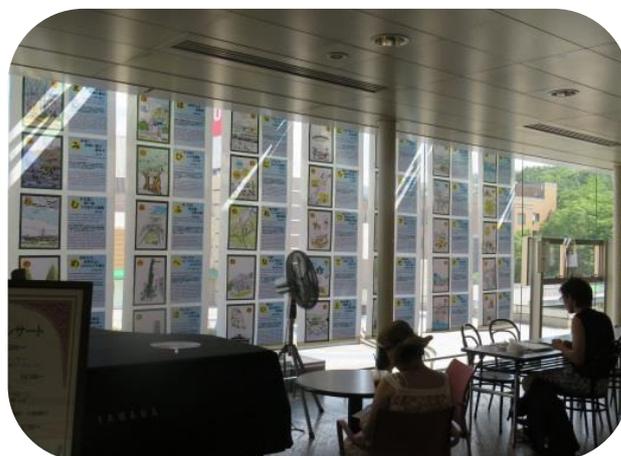
今年は会場が永山公民館に変更され、主要イベント『世界と握手 Tama 広場』も8月3日(水)に予定され、当クラブの定例会と重なったため、参加会員が集合時刻に間に合うよう定例会の会場を永山公民館視聴覚室に、開催時間も午前中に変更するなど特別の対応を行った。

当日は当クラブから倉賀野会長、西村副会長と神谷、北村、鈴木(達)、登坂、中村、古澤、堀内、山田各会員と筆者の11名が出席し、「多摩プロバスかるた」を使った2回のかるた取りの読み手を務めた。小中学生や一般市民も参加して会場は大いに盛り上がった。終了後、昨年同様「多摩プロバスかるた」を記念品として一人一人に贈呈した。

彼らは多摩市と同様にこのプロジェクトに賛同する日本各地の都市を巡回してから多摩市を訪れるので、この寄贈は彼らに多摩市を印象づけるのに効果的であるとして WCT

事務局には大いに歓迎されている。

また、WCTの期間中を含め3週間にわたって「多摩プロバスかるた」の絵札、読み札、ミニ解説文(英訳文を含む)の拡大コピー版が、ベルブ永山3階の喫茶フロアのガラス壁面に展示された。これは当方の提供した「かるた」の資料に基づき WCT事務局が今回の展示のために新たに用意したもので、事務局側の「かるた」に対する思い入れの深さを感じさせるものであった。



ベルブ永山3階に展示された「多摩プロバスかるた」

富士山はいつ噴火するか

「富士山はいつ噴火するか」、勿論、今、それは誰にもわかりませんが、富士山は過去の史料や地質調査などにより単純に平均すると 30 年に 1 回は噴火を起こしているのに、近年では 1707 年宝永大噴火以後 300 年以上も沈黙を続けており、いつ噴火してもおかしくない状況とされています。

学者が指摘するように、もし 2030 年代または遅くも 2040 年までに M9 クラスの南海トラフ巨大地震が発生し、その影響を受けて富士山が噴火するとすれば、その結果がわが国の政治・経済・社会に及ぼす影響は想像を絶するものがあります。多摩市からは富士山がよく見えます。我が家のベランダからも富士山が眺められます。地震や噴火には全くの素人ですが富士山噴火の情報には関心を持たざるを得ません。

トラフ (trough) とは辞書を引くと「(細長い) 銅葉桶」、「(屋根の) 雨どい」という言葉が並んでいます。つまり南海トラフとは西は四国の足摺岬の南から東は伊豆半島の西側、駿河湾の奥まで、東西およそ 600km に達する太平洋の海底の谷状の地形のことで、フィリピン海プレートが陸地を形成しているユーラシアプレートの下への沈み込みによってできたものです。そしてこの二つのプレートの重なり合う境界付近を震源とする地震が南海トラフ地震であり、その震源の位置から、南海地震、東南海地震、東海地震と呼ばれます。そしてこれらの地震は連動して起こることが多いのが特徴です。

大澤亘会員



この地域では巨大地震が周期的に発生することが知られており、直近では終戦の年を挟む 1944 年に昭和東南海地震が、1946 年には昭和南海地震が発生していますが、それ以降すでに 70 年が経過しています。そこで上述の通りの予測がされているのです。

M9 規模の南海トラフ巨大地震と富士山噴火の連動を懸念するのは前例があるためです。南海、東南海、東海の 3 地震が殆ど同時に発生した上記の宝永大地震 (1707 年 M8.6) の 49 日後に富士山の歴史時代の二大噴火の一つと言われる宝永の大噴火が発生しているのです。また、これは南海トラフ地震ではありませんが、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震発生の日後、富士山の直下 15km 付近を震源とする M6.4 の地震が発生しました。火山学者はこの時、本当に富士山が噴火するのではないかと緊張の



一般市民向け解説書の数々

毎日を過ごしたとのこと。結果的には噴火はありませんでしたがその可能性を示唆したとも言われています。

当クラブのプロバスソングにあるように富士山が霊峰と呼ばれる今の姿をいつまでも保って欲しいと思っています。

◆◆◆ 委員会活動 ◆◆◆

ホテル観賞会

鈴木達夫会員

去る 6 月 25 日 (土) 桜ヶ丘公園で、会員 6 名が地域の人達と共にホテル観賞・観察を楽しみました。

- ホテルの生態は、
- 公園内で見られるホテルはゲンジボタルで、きれいな小川に棲んでいる。
- ホテルのオスとメスの見分け方は、お腹にある発光器の数で区別。オスは 2 つでメスは 1 つ、明るく光る方がオスで、弱く光る方がメスです。
- ホテルの大きさは、約 14mm、メスは約 18mm、ヘイケホテルは 4 割小さく、どちらもメスが大きい。
- 寿命は、飼育で 15 日、野生で約 5 日。
- ゲンジホテルは、約 4 秒毎に 1~2 秒の発光を繰り返す。この同時明滅に参加するのはみんなオス、葉に止まって時々弱く発光するメスを探しやすくするためです。
- 一番活発に飛ぶ時間は 19 時半~20 時頃です。

◆◆◆ サークル活動 ◆◆◆

1. 歌を楽しむ会

瀬尾日出男会員

想い出の多い懐かしい歌を大きな声を出して楽しむ会を続け、月一回のペースで課題曲数曲を練習、特に暑さを迎えた 7 月は、ハワイアンメロディーの代表曲「南国の夜」「真珠貝の歌 (パリーシェール)」を練習、東の間の涼しさを味わいました。

今まで練習した曲のボリュームも増え、歌詞ファイルの量も結構な数になり、各自整理するにもひと工夫が必要となりました。また、気分転換の意味合いからも、カラオケで歌いましょうと発案、8 月 19 日に近くの会員馴染みの場所に集合、日頃の成果の一端を込め各自の好きな曲は勿論、メロディーが流れると自然に歌える満足感を得ることができました。

これからも春夏秋冬、季節に応じた曲を多くマスターして時を過ごす健康第一の楽しい目的に向かって皆さんの参加を大いに期待しています。

◇◇◇ サークル活動(つづき) ◇◇◇

2. 第 109 回俳句会 登坂征一郎・増山敏夫会員

8月12日開講。12名各自由題4句を事前投句。計48句の無記名一覧表から天賞を含む4句(自句を除く)を選び選句表に〇〇選と記入して被講に提出。この日の被講・秋霜さんがこれを読み上げる。句が読み上げられた作者は番号で名乗る。被講の後、順に採った句の評価点、感想が述べられた。その後、指導の石川春兔先生より5句点、4句点の公表並びに全句の講評、添削が行われ、充実のひと時半でした。以下、2句ずつ……。

<下線_は要検討、下線__は添削後、矢印 ⇨は添削句>

鮑採る海女は波間に口笛(ふえ)を吹く	玄海
ポケモンGO避ける隠居の夕涼し	光花
水茄子を指で割りおり昼の膳	露枝
手を翳しバスを待ちたる大暑かな	爽風
竿先の鈴の音を待つ夜釣人	秋霜
<u>夕立後</u> のろりと進む大みみず	透水
⇨ <u>雨上がり</u> のろりと進む大みみず	
襟足を見詰め手真似の <u>盆踊り</u>	玄海
⇨襟足を見詰め手真似の <u>盆踊</u>	
<u>初蟬</u> や無名に生きて潔し	志水
⇨ <u>空蟬</u> や無名に生きて潔し	
捨てがたき写真の始末晩夏光	光花
錦なす多摩の乞田の花筏	虎子
大の字に寝たため息の大暑かな	胡桃子

自画自讃今年もトマト賞味せり	流馬
⇨自画自讃の <u>今年</u> のトマト賞味せり	
(自画自賛の→の <u>は</u> 三段切れを補う、 <u>もは</u> の <u>に</u>)	
幼児 <u>も</u> 浴衣ひらひら踊りの輪	魚水
⇨ <u>幼児</u> の浴衣ひらひら踊りの輪	
良き医者になれ孫娘梅雨の晴れ	流馬
⇨ <u>孫娘</u> 良き医者になれ <u>五月</u> 晴	
無意識に枝豆口へ巨人戦	露枝
戻り来てまた先を往く鬼やんま	爽風
里山の廃寺の跡の沙羅の花	秋霜
⇨ <u>里山</u> の廃寺の <u>屋根</u> 沙羅の花	
夢乗せて飛び立つロケット星祭	岳人
木下闇肩寄りそいて <u>ぬける道</u>	虎子
⇨ <u>木下</u> 闇肩を寄りそう <u>回り道</u>	
(<u>ぬける道</u> ;情緒的な表現を!→ <u>回り道</u>)	
銀河濃し共に仰ぎし君逝けり	志水
風鈴や帰国の夜のセレナーデ	胡桃子
提灯の <u>名前</u> 見上げる <u>盆踊り</u>	魚水
⇨ <u>提灯の子</u> の <u>名</u> 見上げる <u>盆踊</u>	
(誰の名前か?具体的に、 <u>り</u> は不要)	
<u>寝転び</u> て雲を <u>眺め</u> て <u>夏</u> 来る	透水
⇨ <u>寝転び</u> て雲を <u>眺め</u> る <u>夏</u> 初め	
(動詞は多くとも2つまで、焦点が散る)	
すれ違う列車待つ間の日輪草	岳人

◇◇◇ 会員活動 ◇◇◇

ボランティア団体「おもちゃ病院 Kebo」での活動

古澤靖雄会員

先ず、一言「おもちゃ病院 Kebo」の立ち上げにご尽力された方々へ設立に当たり、計り知れない御苦勞をされたものとお察し申し上げます。驚くなかれ16年前の設立当初の代表者は、当クラブの小西加葉子会員であり、ドクターの一人が登坂征一郎会員でありました。私は第3回ドクター養成講座に合格した一人です。

活動目的は、おもちゃの修理を通じて①子供達の情操教育に役立ち、地域社会に貢献する②リサイクル活動を通じて環境保全に少しでも役立つ③おもちゃドクターに社会参加の場を提供する④物を大切にする勿体ない精神の啓発を行うことを掲げています。活動場所は主に児童館、公共施設での定期開院、巡回開院、更に公共団体の開催するイベントでの開院です。おもちゃの修理は、ボランティア精神で修理に必要な消耗品代を除き、無償修理を原則としています。4~5年の「おもちゃ病院 Kebo」の年間開院回数は、50箇所前後で他の教室に重複参加する人もおり年間100~120箇所へ出席する猛者もいます。

患者さん達も色々で、主にお母さんと乳幼児、低学年



生、家族全員での来院、「孫の物ですが」と高齢者が扱い方の説明ももどかしく直してくださる方がおります。また、なかには思い出の記念品を出され長々と思い出話を聞かされる時もあります。

年間取り扱う「おもちゃ」は約5~600個程度でしょうか?10%程は修理不能で返却します。返却時の一幕劇が大好きで心も洗われ、感動します。開院が終わる頃依頼者が心配顔で受付に恐る恐る預かり証を出しながら預りナンバーを口にする。「その番号は直っていますよ」の声で満面笑顔が咲き誇ります。担当ドクターを呼び修理ポイントを説明して「大切に使ってね、壊れたらまた持ってきな!」と言うと、子どもは直ったおもちゃを大切に胸に抱え「ありがとう」と笑顔で言われた時、どのドクターも異口同音に“ドクター冥利につきる一瞬だ”と満足顔になります。この様な一日を過ごしたドクター達は達成感と生き甲斐を強く感じ、明日の活力にしています。

◇◇◇ 我が故郷 ◇◇◇

「わが故郷～駒ヶ根市」



中央アルプスの麓の駒ヶ根市

北村克彦会員

駒ヶ根市は、長野県南部伊那谷の中央部にあり、東に南アルプス、西に中央アルプスが聳え、天竜

川の河岸段丘に位置し、標高は676m(市庁位置)と高い。伊那節の一節にも「東仙丈、西駒ヶ岳、間を流る天竜川」と謳われている通り、風光明媚な地域であることから「アルプスが二つ映えるまち」をキャッチフレーズにしている。駒ヶ根市は、1954年赤穂町周辺の2町2村が合併して生まれ、その名前は、木曾駒ヶ岳の麓のまちに由来している。1956年、市の一地区が分市したため、全国一小さい市となったが、1960年わが母校の赤穂高校が甲子園に出場した時、「全国一小さい市から全国一小さいチームがやって来た」と当時の週刊誌に書かれたものです。

私の通った赤穂小学校、赤穂中学校の校歌は同じで「天路(あまじ)を走る駒ヶ嶺や 雲間を下る天竜や その高原に地を占めて 操も清き鈴蘭の ゆかしく薫る学びの舎」と、恵まれた環境を謳い上げており、9年間歌い続けた。その後小学校は市内の四地区に分けられたが、皆同じ校歌を歌っている。

中学2年の夏は学校の行事として、木曾駒ヶ岳に登山するのが慣わしであった。身体検査をし、20kg程度の荷物を背負って、近くの山に予備



木曾駒ヶ岳登山

登山をして、合格した者(約6割)だけが一泊二日の本登山に参加できることになっていた。

市内には霊犬早太郎伝説で有名な「光前寺」があり、貞観2年(860)に本聖上人により開基された伊那谷随一の名刹である。樹齢数百年の杉の巨木に囲まれた境内には十余棟の堂塔を備え、枝垂桜とヒカリゴケでも有名な長野県下屈指の大寺であり、南信州随一の祈願霊場として広い信仰を集めている。



宝積山光前寺三重塔

境内全域が名勝庭園として国の文化財に指定されている。

春と秋には、市内の神社でそれぞれお祭りがあり、稚児行列、獅子舞、打ち上げ花火、仕掛け花火など、時には参加もし、見物を楽しみにしていたものです。

現在、駒ヶ根市の人口は、約3万3千人、少子高齢化と人口減少が進んでいる。

市内には、JICA 青年海外協力隊の訓練所があつて、70日間の訓練を年4回行っており、多くの訓練生と多くの外国人が住む国際色豊かな市でもある。私が故郷を離れてから約60年、当時の面影は薄れたが、美しい自然は今も私の頭には鮮明に残っている。

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

7月誕生日を迎えられ

8月誕生日を迎えられ

ました!

ました!



左から鈴木泰弘・西村政晃・

滝川道子会員



左から上田清・阪東照子・

高村弘毅会員

◇◇東京多摩プロバスソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

リオ・オリンピックで日本はオリンピック歴代最高の41個のメダルを獲得した。日本選手の大活躍で日本中が感動し歓喜に沸いた。力と力がぶつかり合う競技には選手たちの厳しい訓練の成果が見られ、選手たちの日頃の努力に頭が下がる思いであった。次回の東京オリンピックでの日本選手への期待も大きくなった。

8月は終戦後71年を迎え、テレビや新聞などで戦時中の報道も多く伝えられ、日本として大いに反省すべきことも多く、この反省を次世代に伝えていくことは大切なことではないかと痛感した。(広報委員 中村昭夫会員記)